

長野県神社庁報 第124号

平成29年1月1日発行:長野県神社庁 庁報発行委員会・庁報編集委員会 (長野市箱清水1-6-1 電話026-232-3355 FAX026-233-2720)



特集 皇室と信州 ~ゆかりの地を訪ねる

子供参宮団募集について	謹賀新年	災害救助慰藉特別会計歲入歲出決算書平成二十七年度長野県神社庁歲入歲出決算書	神宮大麻頒布表彰・寄附者顕彰・辞令	神城断層地震の復興状況	御造営フォトニュース	神道を考える⑥	神社のいろは⑥	第十六回靖國神社参拝TOKYOツアー	浦安の舞研修会・祭祀舞研修会教養研修会・雅楽研修会	県内雅楽研修会二十周年記念演奏会	神社庁設立七十周年記念大会	特集 皇室と信州	新年の御挨拶 藤村 吉彦	年頭の辞 宇治橋 淳	日誌抄	目次
24	20	19	18	17	16	15	14	12	10	9	8	4	3	3	2	

日誌抄

二二日 第七十一回連合大会打合会

於 穂高会館

|五日 総代会支会長会

於 ホテルメトロポリタン長野

(平成二十八年七月~十1月)

七月

三十日 神宮大麻暦頒布委員会

一九~三十日 祭祀舞研修会 一六日 教化部調查委員会

吾 四

支部長懇談会 於 斑尾東急

五~九日

神政連長野県本部役員会

リゾートホテルタングラム

八七六六日日日日

庁報編集委員会

十三日 庁報編集委員会 十二日 神社庁設立七十周年神殿例祭 東海地区中堅神職研修精算会 並びに参事会 於 神宮会館 期)於 神宮会館

十二~十三日 雅楽研修会

式典 於 明治記念館 神社新報社創刊七十周年記念

一七日 第五十二回全国神社総代会大会 -七目 神宮大麻暦頒布秋季推進会議 T七日 神宮天麻暦頒布始祭 工八日 神宮大宮司御招宴 -八日 神社庁長会 於 秋田県民会館

一十日 第八十九回神社庁定例協議員会 十四日 神宮大麻暦頒布常任委員会

|四~||五日 一四日 兼職祭式研修会

初任神職研修会(前期)

三十日 辞令伝達式 二九日 前神宮少宮司伊勢神宮崇敬会 一九日 教化部教化委員会 祝う会 於 神宮会館 理事長高城治延様の長老を

一九日 戸隠神社藤井名誉宮司水野宮 一八日 教化部青少年対策推進委員会 一六日 人事諮問委員会

於 ホテル国際21 司就任祝賀会

九月

東海地区中堅神職研修会(後

士二~士三百 十二日 神宮大麻暦頒布委員会 連合大会雅楽演奏会合同練習会

東海五県神社庁庁長参事会

二六目 第七十一回長野県神社庁・ 十八日 庁報編集委員会 十七~十八日 長野県紅葉会 十五日 第四五回【初穂曳】 十四日 神社本庁定例評議委員会 十三日 連合大会雅楽演奏会合同練習会 長野県神社総代会連合大会 当番 四柱神社 於 愛知県

第71回 7 2 連合 於 穂高会館

八~九日 三~五日 浦安の舞研修会

支部長事務担当者会

八月

十七~十八日

教養研修会 於

木曽

皇太子殿下御一家御奉迎

第十六回靖國神社参拝旅行

於 松本市

一十日 天皇皇后両陛下御奉迎

初任神職研修会(後期)

十四日 監査会

十六~十七日 天皇皇后両陛下御奉迎 於飯田下伊那

当番 愛知県 於 ホテル竹島



三一日 教化部祭祀委員会 一八日 教化部青少年対策推進委員会

十月

十一月

神社庁神宮大麻暦頒布始奉告祭 神政連長野県本部役員会 古召買買 支部長会

十一日 県敬神婦人連合会総会 於 長野県神社庁 教化部役員会 庁報編集委員会 教化部調查委員会

十七~十八日 東海五県紅葉会 二一日 教化部青少年対策推進委員会 一八日 中信地区氏子総代研修会 一四日 庁報編集委員会 元~三十日 於上松町 於 神社本庁 平成二十八年度全国教化会議

0) 辞 長野県神社庁 庁長 宇治橋

淳



え謹んで言寿ぎお祝い申し上げます。 の平和と皆様のご清祥をお祈り申上 皇室のご安寧、日本の安全、世界 平成二十九丁酉歳・新しき年を迎

をお護り下さいます様、 祇に感謝の誠を捧げ、今年も各地域 長野県下各地に鎮まります天神地 心から祈願

州

ある足蹟を遺すことが出来ました。今年からは更なる発展と向上を目指 昨年は長野県神社庁設立七十周年記念大会を行い神社庁の歴史に意義 役員一丸となって継続事業の活性化と新規事業に取組んでいきたい

す。 並研修道場氏子会館建設に向けての第一歩を踏み出したいと念じていま 神職・総代・関係者が会員となり先ず資金を積立て、 まりますので、この十年間が良い機会と思い建設振興会を発足し、神社・ じ得ない状態となっています。神宮式年遷宮の次期募財が十年後には始 に依る利便性等の諸問題が起り、これ以上の改修補強は浪費の危惧を禁 労苦に依り昭和三十三年に造られ、その後氏子会館の増設・各所の増改 設振興会の設立を目指したいと思います。現在の庁舎は先人達の情熱ど 築補修工事を繰返し今日に至っています。耐震性・老朽化・時代の変化 今年度新規事業として庁舎並研修道場氏子会館の全面改築のための建 理想に叶った庁舎

理解をいただき、 皆様それぞれ諸事情を抱える中、経済的御負担をお掛けしますが、ご 御協力を切にお願い致します。

拶とさせていただきます。 今年が皆様にとってより佳き年であります様、 お祈り申上げ年頭の挨

0) 御 挨 長野県神社総代会 ます。 拶 新春を寿ぎ謹んで祝詞を申し上げ 会長 藤村 吉彦

す事は、誠に慶賀の極みに存じます。 ご公務にご精励遊ばされておられま られましては、愈々お健やかにて日々 畏くも天皇・皇后両陛下におかせ 年頭にあたり、県内各神社及び神

職・総代・氏子崇敬者の皆様の御隆昌

御健勝を心よりお祈り申し上げます。 た事に、厚くお礼申し上げます。 昨年は、 神社総代会の諸施策に深いご理解と、 格別のご協力賜りまし

> 暮らしに大きな影響を与えておりますが、心ならずも不自由な生活を余 儀なくされている方々に対し、衷心よりお見舞いを申し上げます。 昨年四月発生した熊本地震は、現在も数多くの神社と、氏子崇敬者の

に大なるものがあります。 の為に地域の拠り所として崇敬されてきた神社が果たすべき役割は、 それに伴い、共同体意識の希薄化が目立つなどの指摘もあり、 子高齢化の進行など、社会環境そのものが大きく変化してきております。 さて、昨今の我が国は人口の大都市集中と地方の過疎化、さらには少 その再生 洵

える活動を展開してまいる所存です。 本会では、地域社会の発展に尽くすと共に、日本の伝統文化を護り伝

皆様には今後とも、 格別なるご理解とご協力を切にお願い申し上げま

念申し上げまして、新年の挨拶と致します。 結びにあたり、県内各神社の益々のご繁栄、 関係各位の御健勝を御祈

特 皇室と信州

明治天皇長野御巡幸と神武天皇遙拝所

所がある。二間ほどの遙拝所拝殿はきれい 区の商業施設に隠れるように神武天皇遙拝 年建立の忠魂碑がある。 葉歌碑や戦後小学校から移設された大正十 に整備されている。またこの場所には、万 長野市の東端、 須坂市と隣接する柳原地

武天皇祭に合わせ神武天皇陵への遙拝が行 現在でも四月三日の中俣神社 例祭日には、神職・役員によって神 (長沼忠行

現在に至るまで遥拝が続けられているのだ がなかったこの地区に遙拝所が建設され うな様子であったのか。また、なぜ御巡幸 建設された。当時の明治天皇巡幸はどのよ この建物は明治天皇の長野御巡幸に期に

〉明治天皇御巡幸

街道を通り、長野、 幸が行われた。この時の巡幸路は浦和、熊谷、 明治十一年、北陸・東海道地方への御巡 追分と中山道を通り、 高田、 柏崎、 小諸から北國 新潟、糸

> 岐阜、 魚川、 る七十二日間の行程であった。 名古屋、 富山、金沢、福井、滋賀県草津、京都 静岡、小田原から東京へ帰

大正十四年長野市役所刊)に及んだそうだ。 人足は千名以上、馬は百十三匹」(『長野市史』 書記官山岡鉄舟をはじめ八百三十九名に 大警視川路利良、陸軍少輔大山巖、宮内大 大蔵卿大隈重信、内務大書記官品川弥次郎 御巡幸の供奉員は、「右大臣岩倉具視以下」

◇当時の長野市

ち着かない中野を離れ、流通、情報が届き た中野県が県庁の焼き討ちの後、 藩知事返上があり、善光寺領を管轄してい 長野県となり、長野県庁ができる。 やすい長野の西方寺に移転した。そのまま の繁華街であった。また、明治四年に松代 善光寺を有する長野市は当時長野県随 政情が落

た。明治五年に中野県庁が移転するころ 町を形成した八町の各庄屋が運営をしてい ていた。宿場町であり伝馬町である善光寺 に形骸化していて行政上の区分のみが残っ 「長野村」という実体は江戸時代にはすで

官僚、

の移行は比較的容易に行われた。 などで結びついていたこともあり長野町へ れたこの地であったが、経済圏や祭礼行事 領、松代藩領、越後の椎谷藩領と細分化さ とになる長野町の名前が作られた。善光寺 長野村の概念が再認識されて、 長野市のも

〉長野市の御巡幸の様子

編集委員

は初めての洋装に靴を履かされ、 た。渡しでお迎えする長野師範学校の生徒 の人並みは「山をも崩す勢い」(同)であっ のごとく集まった。県庁に至る二キロの道 人々が、「雲霞」(『信濃御巡幸録』昭和八年) 九月八日、丹波島の渡しには出迎えの 一拝をす

毛のアラビア の御料車は栗 続き、朱塗り 章の天皇旗が 月に及んだと る練習は一か に菊の御紋 た二列の騎兵 ントを羽織 いう。槍にマ



北陸道御巡行圖『信濃御巡幸録』

飛び込むと鹵簿の列を驚かせると、清水の料車が過ぎた後だった。田子では蛙が池に そうとした人々も、顔を上げればすでに御 求められた。一生に一度の事だと玉顔を拝 ないように目張りをした。北國街道は石 娘を連れ立った人々が三日前から善光寺町 周りに木綿を張ったという。 査より御維新後に土下座は失礼だと立礼を つないほどに掃き清められて、若槻では巡 の旅籠に泊まり満室、二階以上には失礼の 寺院坊から大門町間で五十八ケ所に分宿し 月八日から十日まで滞在した。一行は善光 ぶ百棹の荷物など、列の通過には数時間を 近郷近在からは善光寺参りを兼ねて孫 善光寺大勧進が行在所となり、

>城山で天覧

鮮やかな色花火を打ち上げた。(『長野市史 また、高台にお上りになられた天皇のため 世を統べるスメラミコトより「国褒め」の 山の仮宮にて善光寺平を眺望され、この時 城山は長野県神社庁の旧住所名である。城 在所を出御されて、城山に御臨幸された。 お言葉を賜った寿ぎ山になったのである。 製糸場に御臨幸、師範学校で天覧授業があ 翌九日、明治天皇は、県庁を巡覧、勧業場 「佳郷」と仰せになられた。城山はこの 長野町民と、長野の近隣の村の者が拠 裁判所を御訪問された。午後になり行 天皇奉戴の気持ちを表すため、色

> 第五巻歴史編近代二 平成九年

〉神武天皇遙拝所建設

武天皇遙拝所の建設を申し出た。 武天皇遙拝所の由緒書にはこうある。 明治十一年八月、寺田久連松は県令に神 中俣の神

「神武天皇遙拝所

連松氏が発願し所有の敷地を献じて設立を 明治十一年(一八七八年)八月故寺田久

卯年一月十日の集会に八十余人協和にて普 中俣勝善寺(現須坂市勝善寺)の寺跡である。 へ御稟議、 これを許可せんと庁第二十三号にて内務省 和栄十郎、 請世話人に会津文治郎、辰野仲右衛門、 寺係山崎山人氏)恵諭を蒙り明治十二年己 けようと十二月二十四日に願いその宮の(社 しても報うぜんと旧跡の高傑な清浄の地に 大御心に感激して、維新の御恩澤身を粉に 一十日請願す。 村有志同盟にて神武天皇陵の遙拝所を設 氏はかしこくも明治天皇の北陸御巡幸の この遙拝所の地は中俣城址の西にあって 小林源右衛門の四氏を挙げ、 済二月五日御指令にて十日到着 官長(長野県令楢崎寛直公) 大

神楽執行する。 業を休み里神楽を奉祀してきている。 天皇祭(春祭)として村民挙って、 月三日に落成祭、寄進もの前夜、 木の営みを励み、 本日吉辰にて手斧始め、 以後村人は四月三日は神武 十二月二十日地鎮祭、 一同満願悦び十 奉灯、 一日の 里 四

成二十八年初夏号「長野市寛慶寺の荒木田

伊勢神宮御師荒木田久老(拙書『瑞垣』平が記されている。江戸時代後期の国学者、

日だけでもお逢いしなくては

たら、二度とあの方におあいできない。

今

中麻奈の岸辺に浮いている舟が漕ぎ出 うことかたし きょうにしあらずは. 「なかまなに 浮きおる舟のこぎでなば

あ

るのだろうか。 拝所は竣工した。では久連松が遙拝所と 激を後世に残すとして自分の土地を差し して献じた中俣とはどのような場所であ 務省より決済が下りている。久連松は感 月十日に請願をして二月十日には 明治十三年四月三日に神武天皇遙

〉中俣の地

碑を建立してい じ土地に万葉歌 された日に、同 が内務省で決済 五日、建設許可 明治十二年二月

集』巻第十四信 碑には



2間ほどの社殿はきれいに保たれている

『万葉

久任追悼碑について」参照)が『信濃漫録 に「この中麻奈は上水内郡中俣ならむ」と したことから、中麻奈の証歌とされた。 この碑の由緒書によれば「寺田久連松

地の戸長でもあり特別の思い入れがあった 究者であり中麻奈庵と称す久連松は、この 励んだ。上水内、更級両郡の書記を歴任し 柳原戸長をつとめる」とある。万葉集の研 深くし自ら中麻奈庵象悦と称し和歌の道に 天保六年~明治四十三年 万葉集の研究を

〉おわりに

設した。その建設地は万葉集の伝承する「な ずといえども、 気をもって近代洋装の御巡幸を歓呼で迎 息づいているといえる。 俣神社の例祭日も四月三日に移動したとい かまな」の地でなければならなかった。中 文明と文化の発展を励まされた。民衆は熱 御巡幸は各地で教育や殖産を奨励され、 現在も久連松の感動と熱意がこの地に 御巡幸の列に只頭を垂れ、竜顔は拝せ 自分の土地を投げ打って遙拝所を建 久連松は後世にこの感動を伝えよ 満足して道の石を拾って

あらずして、終始相互の信頼と敬愛とに依 が結ばれているのである。 天皇と国民の関係は、まさに神話のみに

佐久市香坂 攝政宮 閼伽流山行啓記念碑について

攝政宮行啓址(登攀道入口からすぐ) 正二位勲一等子爵 清浦奎吾題



攝政宮殿下御登臨之處 正四位勲二等香坂昌康謹書 (御野立所



立された。この御事蹟について報じた当時 裕仁皇太子殿下閼伽流山登攀を記念して建。 これらの碑は、大正十二年八月二十日の 「信濃佐久新聞」 の記事が、 佐久市立図

> 書館に残されていたのでそれを要約してど んな状況であったか記すこととする。

編集委員

井出行則

のワクチン注射実施(七月十九日付) られていった。記事の日付に従いみてゆく。 では開闢以来の光栄と奉送迎の準備が進め 閼伽流山行啓が決定となると、地元郡町村 たが実際のご滞在は十七日より二十五日) (ご予定は八月十八日から二十七日であ 滞在される攝政宮殿下の御日割が発表され 正十二年東長倉村から軽井沢町となる)に 御召自動車御通過沿道の町村民悪疫防止 八月十八日から二十七日まで軽井沢 天

伽流山御道筋の手入れ(八月七日付) 小学校全生徒四百五十名の三日間に亘る閼 奉送迎心得通達 (七月二十九日付) 三井

奉送迎注意通達(八月九日付)

同郡大沢村は繭 ツと縮緬、 県郡町村の献上品の決定(県はワイシャ 小諸町は彫刻石、 日付は異なる 南佐久郡は鯉

れるようにと進めていたのだが、 あった。日本アルプスがより良く御覧にな 林伐採をとりやめるよう沙汰するもので の道筋七丁目で行われていた個人所有の山 の自動車が到着する。それは、 いよいよ晴れの日を迎えた地元三井村に 午前七時頃摂政宮殿下より有難い御使 殿下御下山 それには

州

を御覧になられた。

記事である(八月二十一日付 およばぬとの殿下のお気持ちがしのばれる

東宮職にお声をかけられるなどおくつろぎ 御徒歩にて登攀、諸方にカメラを向けられ、 前十時過に明泉寺参道に御到着、 代吹奏、殿下には御会釈を賜わりつつ、午 当日の御順路は、軽井沢大隅候別邸より 各村の出入り口に大国旗、各戸に国旗が 白絹の背広、洋杖の御姿にて御下車 岩村田、三井村であった。 御車が確認されると一斉に君が 山頂御野立にて佐久一円の眺望 ヘルメッ

とのアルプス登攀を偲ばれ、 本アルプスを御覧になられ、 御下山の途中胎内くぐり、 (八月二十一日付 十二時自動車にて御帰還となっ 御弟君秩父宮 御喜びつつ御 七丁目にて日



攝政宮殿下の御姿 閼伽流山行啓で、岩村田町御通過の際、 謹写された

為予定を変更し御帰京になられている。 藤友三郎首相逝去により、 などお過ごしになられるが八月二十五日加 その後、 殿下には小諸城址御成、

もたらされたかのような印象を受けるのだ 国内にあっては行啓直後の九月一日に関東 により大変厳しい国際関係の只中にあり、 が、当時我が国はワシントン会議の諸条約 月二十五日摂政に御就任 大正十三年一月 年譜を記すと、大正十年三月三日から九月 大震災といわれる大地震がおこっている。 太子殿下の行啓によって佐久の地に清風が 十二年の御訪軽時御年齢二十二才の若き皇 二十六日良子女王と御結婚となる、大正 三日までヨーロッパ御訪問、 ここで大正十年頃の裕仁皇太子殿下の 大正十年十一

明治二十年代より道路整備、広報活動をす 北白川宮、 すめ大正になると奇勝地として天下に知ら として選ばれたのか、 れることとなり、行啓前には北白川宮大妃 義光住職の奮闘が大きかったようである。 さて、佐久香坂の閼伽流山が何故行啓地 朝香宮が御訪問されている。 それには明泉寺横山

職が碑建立の協賛会を立ち上げた記事があ ものと思われる。 清浦奎吾子爵が当地を訪れた際に揮毫した の碑は、 登攀口からすぐの大きな、攝政宮行啓址 県が建立したということだが、 大正十三年十一月に首相退陣後の 碑近くに住む老人による

> れない。 るので、そのような運動があったのかもし

行っている。 魂慰靈塔の管理は明泉寺中島義照住職が 現在、 この碑と横に一 段下がって建 つ忠

めると、 実際に閼伽流山へ登り、 誠に雄大で愛らしい景色が広がっ 御野立所から眺

ると国内外から訪ねる人がいることが分か 客殿が絶壁の下にあり、 十丁目には、 皆すば 鐘楼、 客殿のノートを見

いる。 葉を残して と賛辞の言 ワンダフル

たいと願う 偲んで頂き て御事蹟を の人に訪れ ひとも大勢 つけて、 足元に気を できるので、 登ることが ば四十分で 健脚なら ぜ



御野立所からの眺め

長野県神社庁設立七十周年記念大会



総代会連合大会」が県下各地より神職総代 会館にて、 念「第七十一回長野県神社庁・長野県神社 平成二十八年十月二十六日安曇野市穂高 長野県神社庁設立七十周年記

理事)、神宮大宮司(代

相見和紀神宮禰

来賓に神社本庁統理

(代理・吉川通泰常務

として会場を大いに盛 高太鼓』の皆様に清興 八〇一名の参加を得て開催されました。 当日は晴天に恵まれ、 第一部として

「種

長(代理·村上 事)、安曇野市

皆様をお迎えし 広志副市長)の 學学長(代理·

國學院大

大村秀司常務理

先生・大窪永夫先生に 頂いております元宮内 える事から毎回雅楽研 年で三十周年記念を迎 り上げて頂いた後は、 御披露頂きました。 修受講の成果を大いに 念演奏会を実施し、研 講生有志を加えての記 本大会の為に再び御来 の上明彦先生・豊英秋 厅式部職楽部首席楽長 修会講師として御来県 る県内雅楽研修会が本 毎年夏期に開催してい 雅楽研修会受

年目の大会であ



続く第二部では、

清興「穂高太鼓」

界に貢献された

れまで県内神社

表彰に加え、こ

例年の功績

多くの方々を表

県頂き、

二十一年に長野 開催されまし されてより七十 県神社庁が設立 合大会は昭和 本年度の

問先導の万歳奉唱にて大会の幕が下ろされ を得て決議の後、前神社庁長の藤井茂信顧 邁進努力する」旨を大会出席者全員の賛同 彰しその功績を顕彰しました。 とともに、神宮大麻の更なる頒布向上に、 べき年にあたり、誓って斯道の興隆を図る して「長野県神社庁設立七十周年の記念す そして大会の最後に本年度の大会宣言と



雅楽演奏会 合奏

県内雅楽研修会三十年記念演奏会

神社庁雅楽講師 保尊

勉

ていただきま

れました。 楽演奏会が行わ 年記念として雅 雅楽研修会三十 周年記念に県内 神社庁設立七十

楽長の上明彦先 式部職楽部首席 います元宮内庁 年御指導頂いて 本演奏会は永

御参加頂き、諏訪雅楽会・伊那雅楽会・信 濃雅楽会・長野雅楽会の有志等計三十四人 大窪永夫先生に 生・豊英秋先生・

によって行われました。

までの三十年間で笙・篳篥・龍笛を延べ をお願いし始められたものです。以来本年 の雅楽普及の要望から、宮内庁楽師に講師 より神社界に祭典楽の必要性と高い水準で よって指導されて来ました。昭和六十一年 九百人超が受講しました。 この雅楽研修会は、元々県内雅楽講師



講師の先生方

り計画してきました。 御指導の成果を発表する場とし、三年前よ うため、また永年にわたる先生方の熱心な 雅楽の知識をより多くの人々に深めてもら 図ってきました。三十年目に当たる今回は

意欲が高まり、 ここ十数年来、県内各地で雅楽習得への 雅楽愛好会が次々と誕生し

周年記念大会 修会を主催し 夢でありまし 講師の三先生 楽演奏を当て の講演会に雅 てきた神社庁 奏は私たちの 方との共同演 し、この七十 た。そこで研 ている中で、 へ実施を相談

舞楽「納曽利」

き当日を迎え に合わせて稽 練習日を設け があることか には技能の差 古を付けて頂 各先生の都合 ら楽器ごとに 演奏者各

ました。 公演では先

を延長するなど一層の演奏技術の向上を

た。十年・二十年目の節目の年には研修日

的に参加し、一般参加者も大勢参加しまし

神職の受講者は、

祭典の間を縫って積極



舞楽「蘭陵王|

了しました。 な拍子の「陪臚」を管絃という古代のオー まり最も親しまれている「越殿楽」、 講話頂きました。演奏は「平調音取」に始 ず大窪先生に雅楽の歴史や楽器の紹介を御 は初めてで、良い経験になった」と喜び、 み舞楽「蘭陵王」と「納曽利」を披露し終 ケストラといわれる楽器編成で、 演奏者は「八百人を超える聴衆での演奏 休憩を挟 独特

は心より御礼申し上げます。 献するものと信じ、 継続し、雅楽の向上が斯界興隆に大きく貢 違う」との声が聴かれました。 ていただき、御協力頂きました関係各位に 会場からは「こんな大勢での雅楽は迫力が 今後も雅楽研修会が神社庁の事業として 演奏会実施報告とさせ

各研修会報告

された教養研修会に二十九名が参加しまし 八月十七·十八日、 木曽御嶽山麓で開催



研修でも講師を勤めていただいた、御嶽神 ました。また、平成二十六年の御嶽山登拝 武居哲也宮司による御嶽信仰の講演があり の時局対策に関する講話、御嶽神社 研修会では神社本庁渉外部長小間澤肇氏 (黒沢)

> 人々の切実な声を聞きました。 ガラガラであり、早い復興を望む地域の なら参拝者、登山客で満車となる駐車場も 噴火後の様子などを拝聴しました。噴火前 まで解除) 禁止区域ぎりぎり(当時、後に八合目の上 社(王滝)大家幸雄責任役員と、立ち入り の七合目・田ノ原遙拝所を訪れ、

得がたい経験が出来た二日間であったと好 した。滝行は初めてという参加者も多く、 評を得ました。 また、神社庁錬成行事保科正広助彦を講 新滝・清滝と二箇所で禊を実施しま

楽研修会を開催しました。例年通り元宮内 夫先生をお招きしてご指導を受けました。 庁楽師の上明彦先生・豊英秋先生・大窪永 七月十二・十三日に深志神社に於いて雅

終え、研修も無事修了となりました。 ました。二日目は合奏の練習後、三管合わ せての演奏となりました。緊張の中演奏を えども、技術の向上を目指し必死で研鑽し でる方など顔ぶれは様々ですが、立場は違 練習をしました。参加者は、神職をはじめ 各神社での伶人奉仕者や日頃より雅楽を愛 初日は笙・篳篥・龍笛の各管に分かれて

本年で三十年の節目を迎え、これまでご

先生方さらに先輩諸兄に心より敬意を表し 尽力いただいた宮内庁の先生方、県内講師



ています。多くの皆様の受講をお待ちして た。また年度内に二回目の研修会も予定し おります。 に切磋琢磨して、充実した研修になりまし で指導を受けることができました。お互い 年齢別に班分けをせず、受講者全員



安の舞に携わる者はこの研修会でより正

い舞を習得して、

各地域で舞を奉納する舞

姫に正しく伝えていただきたいというもの

した。この研修を日々のご奉仕に活かして 届き、緊張感のある有意義なものとなりま 先生の熱心な指導が受講者の細部まで行き 社に奉仕する巫女を中心に五名が参加しま いただきたいと思います。 した。少人数の研修で、講師の瀧澤けい子 八月三十日、 研修会を開催しました。県内別表神 神社庁に於いて祭祀舞

考えられま 因の一つと 開催時期が りました。 く中止とな 受講者が無 が、今回は 画しました 研修会も企 たことが原 ヶ月遅れ 年より 朝日舞」



すが、 で検討をし 祭祀委員会 ていきます。

舞研修会を開催しました。本年の受講者は

八月三·四·五日、

神社庁に於いて浦安の

各地の指導者と神社で奉職する巫女に限定

いたしました。その理由は、

中長期的に浦

終戦の日を控えた八月八・九日に県内中 青少年対策推進委員会 副委員長 参拝TOKYOツアー した。 なる東信の参加者を乗せ、 バスは南信から出発して、 片山

求

委員とともに総勢四十二名で行って参りま 武藤美登教化部長を始め引率を務める青対 高生を対象とした「靖國神社参拝旅行」に

み都内を目指しました。

途中渋滞はありましたが、皇居近くで昼

食をとったあと本研修旅行の目的地である 「靖國神社」へと向かいました。

参拝を行い御英霊の安らかならんことをお 坂明夫権宮司より説明を受け、その後正式 殉じられた方々が基にあるということを、 と繁栄があるのは、先の大戦を始め国難に 祈りしました。遊就館では細やかな説明を 戦後七十一年目を迎え今日の日本の平和 靖國神社を後にしました。

を済ませ、宿泊する浦安のホテルへと向か 中央道経由で帰路に着きました。両日とも いました。 のことをしっかりと学び充実した研修旅行 天候にも恵まれ、参加した中高生も御英霊 翌日は東京ディズニー・シーを満喫し、 途中お台場でビュッフェスタイルの夕食

一路関越道を進 乗車が最後と



を分かりやすく勉強していました。 をみて特攻隊のことやその時の様子など していました。そして映画

『永遠の0

第二次世界大戦が終わるところまで学習

私は夏休み前の社会の授業でちょうど

安曇野市

中学三年生

がある行動だと思った。

戦争で何千万人もの人が死んでしまっ

国を守るためにたくさんの人が

が分かってきました。

の人が着ていた服などを見て当時の様子

そして今日、遊就館で特攻機や特攻隊

改めて感じた。今も戦争がいつおこるか

かったと思う、そういう歴史があって今 くて、とてもその当時は悲しいことが多 亡くなったり、無差別で亡くなる人が多

の自分たちが平和に過ごせているんだと

分からないけど、自分が十五年間生きて

機に突っ込んで爆発していて本当に勇気

に捨てて戦闘機にのり、相手の船や飛行

特攻隊の人々は自らの命を国を守ため

送れるのは、国を守るために必死に戦っ

きて、こんなに恵まれている生活が日々

ていきたいと強く感じられました。 てくれた方々のおかげなので大事に生き 靖國神社を参拝して感じた事など、参拝した生徒の方に作文にしてもらいました。

靖國神社について

たたくさんの方々が眠っている場所なん てことも知りませんでした。 私は靖國神社が太平洋戦争で亡くなっ 御代田町 中学二年生

も心配で緊張しました。手水や参拝など ことが出来ました。 常識な事ですが、改めて(初めて)学ぶ がっていてびっくりしてすごくきれいで てから、東京じゃないような景色が広 した。参拝する時は、何をするのかとて 靖國神社の最初の大きな鳥居をくぐっ 楽しみでとてもドキドキしました。 ハスの中で靖國神社の話を聞いてか

遊就館では、たくさんのフロアがあっ

神

婧

國

神 社

> だと思いました。 ために、家族が靖國神社に花嫁人形を届 けたことです。特攻隊の英霊達も結婚は 前に特攻隊の英霊たちは死んでしまった したかっただろうし、とてもかわいそう 特に、私の心に残ったのは、結婚する

展示されていてとてもいい経験をしまし 当時使われていたものなどがたくさん

今回の参拝で感じることができました。 霊のがんばりを、今の私たちが忘れずに、 未来(後世)に伝えることが大切だと、 バス内のビデオでもいっていたとお 国のために命まで失ってしまった英

てたくさんの展示品がありました。

開催前にも必 この度見事に をされており、 勝祈願の参拝 オリンピック メダルを獲





[写真提供 大糸タイムス(株)]

原 希 望 選 手 参

拝

昨年のリオデジャネイロオリン

ピックバドミントン女子シングルス 月二十九日に出身地の一本木神社 奥原希望選手におかれては、 で銅メダルを獲得した大町市出身の (平林秀文宮司) へ報告と御礼の参拝 昨年八

をされました。 奥原選手は、



神

州

然代の凶得元教化部祭祀委員高橋神社の出るはの

穣

祭りは私達の先祖、祖父母の時代から受け継いできた習慣によるものも少なくなく、それぞれの役目を地域の人が分け合って、その形をしっかりと受け止め、毎回執り進められております。ですから総代として、その「持ち分け合うこころ」を大切にすべきものです。祭礼はさうこころ」を大切にすべきものです。祭礼はさうこころ」を大切にすべきものです。祭礼はさうこころ」を表なければなりません。氏子崇敬者の皆さんがいろいろと考えて相談しながら持ち寄る、そんな「持ち寄りのこころ」をまとめることも大事な仕事です。特に境内地は神事を始め広狭にかかわらず神霊の鎮まります聖域としめ広狭にかかわらず神霊の鎮まります聖域としめ広狭にかかわらず神霊の鎮まります聖域として常に森厳かつ清浄に留意する事が大切です。

神社は、それぞれの地域社会の祈りの場であ〉祭典準備の心得

り、その祭祀には、氏日も連綿と行われており、日常の祭祀が今あり、日常の祭祀が今り、神霊の坐す社殿が

十分に理解し、その準り、その由来や伝統を祭祀に奉仕するにあたれています。総代は、れています。総代は、

ばなりません。 備には一つの漏れもないよう注意を払わなけれ

確認をする。
○祭典に必要な、祭器具、神饌、玉串等の準備次に祭典での具体的な注意例を掲げます。

芸能会等)は神社を中心に行うよう働きかけ

ためにする集会や諸行事

(品評会、競技会、

≦が列者の受付と、祭典までの待ち合わせ等の

○祭典中は、他の参拝者が静寂を心掛けるよう

○直会の準備をする。

◇地元との連絡の心得

総代は、神社で奉仕する上においては神職のにつながってゆきます。

また、地域への働きかけとしては、地域生活と神社の関わりを手助けすることが考えられまよって多くの人が自然と神社に参拝し、神社中よって多くの人が自然と神社に参拝し、神社中心の生活を送るよう取り組まなければなりません。その実践例として次のようなことが考えられます。

①将来の神社運営の基礎となる幼児・青少年まの特別の場であり、祈知を担け、、敬神の意識を高めるためとともにか、神社に近づきやすいよう図ること。更に神社が、神社に近づきやすいよう図ること。更に神社が、神社に近づきやすいよう図ること。更に神社が、神社運営の基礎となる幼児・青少年まの特別の場であるので、地域社会の親睦のの場であるので、地域社会の親睦のの場であるので、地域社会の親睦のの場であるので、地域社会の親睦のの場であるので、地域社会の親睦のの場であるので、地域社会の親睦のの場であるので、地域社会の親睦のの場であるので、地域社会の規模をあるので、地域社会の規模を表している。

旨を十分説明しその定着を図ること。(安産祈願・初宮詣・七五三祝・入学祝・卒業祝・成人式・就職祝・結婚式・開業式・厄除・賀成人式・就職祝・結婚式・開業式・厄除・賀成人式・就職祝・結婚式・開業式・厄除・賀

もらえば、手に入ります。もらえば、手に入ります。神社の役員、総代の告さんは、全国神社総代会が出している「改訂 神社役員、総代必携」手帳型か、リーフレット「おやしろを支える人々神社:責任役員・氏子総代のとめ」を必ずもらえば、手に入ります。



「神社庁 総代用資料」 参考資料 「改訂 神社役員、総代必携」 寿命の長さをめで、それにあやかろうとし

州

神道を考える その⑥









ザイトウ」「エイエイトウ」というのがある。 時に唱える言葉に「センザイトウ」「マン という意味である。 なる。建てる家が、永遠に栄えますように 漢字で記すと、千歳棟、万歳棟、永永棟と 上棟祭の時、 棟を打ち込む槌打ちの儀の

鶴亀が描かれ、 頼みてありしを」というのもある。 述べる言葉に「千歳もかも萬代かもと思い かにも、みたまに長生きして欲しかったと 結婚式の掛軸の高砂のじじばばの隣には 神葬祭に斎主が奉読するしのびごとのな 鶴は千年、亀は万年とその

い繁栄への願いが込められている。 神前の装束品に萬歳幡があるように、 永遠という意味を持ち絶えることのな 萬

仏教など他の宗教との大きな違いである。 強い。来世という死後の世界に重きを置く あっても、一家、一族、地域、国家が永遠 の神勅にあるように、人の寿命は有限で に栄えますようにという現世利益の願いが 神道の大切な思想のなかには、天壌無窮 万・萬は漢音でバン、呉音でマン。 漢字の音読みには、漢音と呉音が

師 山 崎 洋文

ンサイとなる。 歩いた芸人の三河万歳は、 ものである。かつて正月に門々を祝福して ており、バンザイという発音は日本独特の 万歳は漢音では、 歳は漢音でセイ、 朝鮮ではマンセーと発音し 呉音ではサイとなるので、 バンセイ。 漫才の原語とな

ある。 ある国民の象徴としての天皇陛下、 そのものをさし、 は、この日本国家の永遠の栄を祈る言葉で ある天皇陛下の、 バンザイとは、 聖壽万歳 明治憲法下では、 現憲法下では、主権者で (天皇陛下万歳 しいて

明治二十二年に考案さ 外新しく、イギリス などの女王を称える 歳と叫ぶ風習は、 れ、発音もバンザイに に匹敵する言葉として QUEEN 女王陛下万歳 言葉に、LONG LIVE 両手を高くあげて万 万歳には二つの悲劇 一された。 「弥栄」がある。 類似のも

> 日の丸、 しまうことである。 記憶が深く、戦争の再来のように思われて 家の弥栄を祈って、天皇陛下万歳を叫んだ 死を前にした兵隊が、自分亡き後の日本国 の意味で使う場合も多い。二つ目の悲劇は、 手上げ状態を表してしまう。バンザイをこ がある。 いことを敵に伝える降参を表す。また、お 君が代と同じで、大東亜戦争の時 この形は両手に武器を持っていな つ目の悲劇は両手を上にあげる

神社庁、支部支会みな統一されている。 ある。これらの大会は、 支部の大会、県の大会、また、全国大会が 壽万歳で閉じる。このプログラムは、本庁、 められる。神社氏子総代会は、神社の会議 様々な宴会は、乾杯で始まり、 敬神生活の綱領唱和に始まって、聖 神宮遥拝、君が代

万歳が言えるよう思いを馳せるべきであ るべき姿をしみじみと考え、心よりの聖壽 神社庁設立七十周年を機会に、日本のあ

ている。 ときわにかきわに)」というくだりは、 みよを たながのみよの 代と常盤に堅磐に(すめらみことの 文に「天皇の大御代を手長の御代の厳し御 壽万歳の意味であり、 一年の中で、一番大事な例祭の祝詞 お祭りの時に注意してきいてみま 全ての宮司が奏上し いかしみよと 聖



(下諏訪町若宮下鎮座)

宮司 宮坂

拝殿御造営

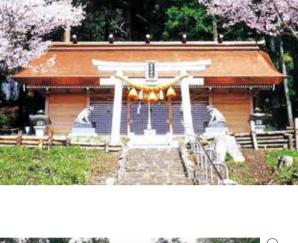
七千五百万円

登った森の中に鎮座する、諏訪郡下諏訪町 える古社である。 の『諸神勧請段』に「トンへニ鎮守」とみ 富部の氏神若宮神社。嘉禎三年(一二三七 鎌倉街道を横切り、長い石段を

> 更に百段上にあった。築後百年にあたる平 成二十六年に建設委員会を組織した。同 広がる景勝地に建つ。大正三年築の旧殿は 造営を行った。 一十八年、御柱大祭の佳節に本殿移設、拝殿、 新拝殿は眼下に氏子の町並みと諏訪湖 手水舎、 燈籠、 狛犬などの新築記念

御神号額をはじめ、明治以降の棟札が明ら した。境内は神気横溢。 かになり、歴史の変遷・伝統の重みを実感 明和八年(一七七一)、三井親和揮毫の

また造営を記念して拝殿御造営記念誌を



○諏訪神社(上田市中野鎮座)

工藤康高



来、改修に向け 会を組織して以 年前に改築委員 朽がひどく、三 は経年による老 建てられた拝殿 てきたが、この ての準備を進め 明治二十年に 一千五百万円 氏子をはじ

> 合わせ竣工式を執り行った。 め関係団体のご協力を得て、 九月の例祭に

)御坂山神社 (駒ケ根市中沢鎮座)

本殿覆殿改築

宮司

今 井

一千四百万円

作業の困難など、修復も限界に来ていた。 化も進み、茅の調達困難、氏子の高齢化で れて以来修復を重ねて来たが、覆殿の老朽 明治四十一年、 茅葺き三社殿にて建てら

覆殿として改築した。平成二十二年からの 三社殿を一棟として銅板葺きで拝殿付の



子崇敬者の浄財により工事が始まった。以

える事になり、建設委員会が組織され、氏

今後の維持、耐震を考慮し建て替

前の拝殿より寸法的に大きくなり、

翌日には例祭が斎行された。 月々の積立金や特別寄進を資金とした。 化が著しく、今では珍しい萱葺きの屋根で ○社宮司神社 明治の初め頃に建てられた拝殿は、老朽 成二十八年九月二十四日に遷座祭が、 (松本市大字大村鎮座) 宮司

中村敏男 六百万円

神城断層地震による大北支部管内神社の被



祓を執り行い、 祝った。永く氏子崇敬者の心の拠り処と 瓦葺きになった。十月二十二日には竣工清 なっていくものと思う。 浦安の舞を奉奏し盛大に

復興状況 大北支部

被害があり

一十八社で

平成二十六年十一月二十二日に発生した

籠・鳥居等の損傷を含めて合計致しますと 害は本殿・拝殿・神楽殿・境内社他の全壊 その他境内地の崩落、 社、半壊が四社、社殿等損傷が十四 建物・玉垣・燈

興への道程 りますが、 が進んでお は復旧工事 ぎ、各神社 は依然とし では未だ復 ました。 一部の神社 一年が過 被災から



等を計画さ 規建て替え ら神社の新 を続けなが もと、祭事 す。氏子の 実がありま 題は山積み れるなど課 篤い想いの て厳しい現

頒布優良奉仕者

神宮大麻暦頒布始奉告祭斎行

る表彰が行われた。(敬称略) の頒布優秀支部及び優良頒布奉仕者に対す いて神宮大麻暦頒布始奉告祭を斎行。左記 平成二十八年十月四日、神社庁神殿に於

神宮大宮司表彰

頒布優秀支部

松塩筑支部

南安曇支部

神社庁長表彰 長野支部 松塩筑支部 建部社宮司 大田神社禰宜 太田 秀史

布制神社総代会長

神

更級支部

一雄

旭ヶ丘神社世話人

上高井支部

鈴木 五十自

謝の意を表します。 赤誠の真心を奉納頂いた皆様に改めて感

(支部名・神社名・鎮座地・授与の理由・氏名) 敬称略

三十五万円以上寄附

大北支部

(株)五竜

狛狐一対を奉納

八王子神社(大町市) 中村石材店

中村莊司

幣殿・拝殿に畳を奉納

津賀尾神社

平成二十八年七月~

附者に対し感謝状が授与されました。 各神社からの申請により、左記金品の寄

计社本庁統理感 三百万円以上寄附

上高井支部

邑守神社(須坂市)

神社整備事業に多額の浄財

村石共有財産管理組合

五宮神社 昇級・神職身分二級上 神社名

諏訪神社(白馬村

曳き舞台新設に多額の浄財 白馬観光開発(株)

代表取締役社長 髙梨 光

神明社(白馬村)

災害復旧事業に多額の浄財

稲荷神社 (大町市) 代表取締役社長 伊藤英喜

上條商店

上條健

(池田町)

拝殿修理に多額の浄財

山崎富隆

[上水内支部]

熊坂神社 (信濃町)

拝殿屋根工事に多額の浄財

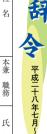
有限会社松澤商会社長 松澤

昇

[上高井支部]

邑守神社(須坂市) 神社整備事業に多額の浄財

邑守神社氏子会



名

月

日

支部名

五宮神社	宮司	高橋	邦衛	九十	木曽
昇級・神職身分二級					
矢彦神社	宮司	型	寿江	九十	上伊那
安布知神社	宮司	林	幸男	九十	飯伊
四柱神社	権禰宜	藤森	睦三	九十	松塩筑
古宮神社	禰宜	越志	秀徳	九十	上水内
伊勢社	宮田	辻	明紀	九十	長野
大田神社	禰宜	太田	秀史	九十	長野
任命					

1.6							
戸隠神社	兼	宮司	水野	邦樹	六·十五	上	永内
上田招魂社	兼	宮司	甲田	圭	七:11十	上	小
戸隠神社	兼	権禰宜	大杉	明彦	八二	上水内	笍
津島神社	兼	宮司	西濱	西濱多恵子	+1·1	諏	訪
神明神社	"		西濱	西濱多恵子	+1·1	諏	訪
大山祇神社	"		西濱	濱多恵子	+1·1	諏	訪
十五社	"		西濱	西濱多恵子	+1·1	諏	訪
赤嶽山神社	"		西濱	西濱多恵子	+1·1	諏	訪
赤嶽神社	"		西濱	西濱多恵子	+-:	諏	訪

長旺縣該國有社(島柱別須佐存社(転出)	本 格神宝	竹田 匠法	ノ. 二十	松培等
辞職				
上田招魂社	兼宮司	清住 宗廣	七十九	上小
退職				
山家神社	禰宜	押森 初子	八三十一	上小

日 打 3 木	ŧ	FILL	泊住	污腥	1.7	L	/
退職							
山家神社	禰宜	33.	押森	初子	八三十一	上	小
御嶽神社	権禰宜	宜	瀬戸	暢	九三十	木	曽

平成27年度長野県神社庁歳入歳出決算書

歳入の部 (単位:円)

1420	. > Hb				(十四・11)/
款	科 目	決算額	予算額	比較増減△	附記説明
1	幣帛幣饌料	755,400	750,000	5,400	神社本庁より
2	交 付 金	101,158,000	101,158,000	0	本庁交付金
3	負 担 金	31,906,862	32,125,000	△218,138	支部負担金、神社負担金、神職負担金、特別寄贈金
4	協 賛 金	6,210,000	6,160,000	50,000	特別協賛金、寄付金
5	財 産 収 入	44,750	50,000	△5,250	財産利子配当金
6	補 助 金	120,000	120,000	0	神社本庁より参事給与補助金
7	各種 証 明 料	4,398,800	2,920,000	1,478,800	神職任命・登録料、承認料、各種手数料・証明料、階位授与交付金
8	諸 収 入	2,982,375	2,500,000	482,375	賽物収入、雑収入
9	管 理 費 収 入	450,000	450,000	0	庁舎管理費収入、関係団体管理費収入
10	過年度収入	444,400	200,000	244,400	
11	繰 越 金	16,391,114	17,567,000	△1,175,886	
	合 計	164,861,701	164,000,000	861,701	
歳出	の部				(単位:円)
款	費目	決算額	予算額	比較増減△	附記説明
1	神宮神徳宣揚費交付金	47,864,147	47,861,387	2,760	支部を通じて各神社へ
2	幣帛幣饌料	8,272,944	8,250,000	22,944	別表及特別神社、本務・兼務神社、献幣使参向神社、幣饌料供進神社、献幣使・随員旅費等
3	会 議 費	4,650,444	4,500,000	150,444	会議旅費、諸費
4	庁 務 費	44,069,942	45,220,000	△1,150,058	神事費、儀礼費、役員報酬、諸給与及び福利厚生費、需要費、神社本庁70周年分担金、神社新報社70周年奉賛金
5	負 担 金	25,824,184	25,823,224	960	神社本庁へ
6	事 業 費	15,905,489	18,566,000	△2,660,511	大麻関係費、教化部費、庁報発行費、神社振興対策費、職員研修費、東海五県連合会費等

145,908 200,000 △54,092 神社庁研修諸費 研 修 諸 舎 維 持 費 536,961 1,160,000 △623,039 修繕費、設備費、火災保険費 9 3,246,961 3,400,000 △153,039 神職会、総代会、災害慰藉特別会計各交付金 交 付 金 0 基本金積立金、役職員退職積立金、五県連合総会積立金、神道昂揚資金積立金等 10 4,000,000 4,000,000 0 時局対策費 50,000 助 金 50,000 11 12 予 費 4,969,389 △4,969,389

計 154,566,980 164,000,000 △9,433,020

合

平成27年度長野県神社庁災害救助慰藉特別会計歳入歳出決算書 歳みの部 (単位:円)

	科	目		決算額	予算額	比較増減△	附記説明
1	負	担	金	3,375,000	3,375,000	0	支部負担金、神職掛金
2	繰	入	金	700,000	700,000	0	繰入金
3	本 庁	見 舞	金	1,840,000	1,000	1,839,000	本庁見舞金88件分
4	雑	収	入	1,823	1,000	823	雑収入
5	繰	越	金	7,749,808	5,923,000	1,826,808	繰越金
	合		計	13,666,631	10,000,000	3,666,631	
歳出	の部						(単位:円)

	費目	決算額	予算額	比較増減△	附記説明
1	災害慰藉費	6,461,600	3,685,000	2,776,600	神社災害慰藉費、神社総代慰藉費、神職災害慰藉費
2	神 職 掛 金	2,175,000	2,175,000	0	神職掛金積立金、神職掛金支払金
3	本庁災害慰藉費	294,450	300,000	△5,550	災害対策資金
4	運 営 費	9,710	60,000	△50,290	事務費、旅費、雑費
5	予 備 費	0	3,780,000	△3,780,000	
	合 計	8,940,760	10,000,000	△ 1,059,240	

	謹	賀	新	ŕ	年	
長	長	長	長	神	長	長
野県	野県	野県	野	道政	野 県	野野
女	神	県 敬 神 婦	県	治連	神	県
子	道			盟	社	神
神職	青年	人連合会	本		総 代	社
会	会	会	部		会	庁
度 可與 谷 一 文度 野縣護國神社若	松本市美須々六番一号	他 職	戸隠神社諏訪市	野総大表 依 田 延 嘉 宮島代務者 池 内 宣 裕	生島足島神社 深	
大町市大字大町二〇九七宮 司 竹 内 直 彦 司 竹 内 直 彦	電 堀 内 潔 人 同	宮	手 受 申 灶 諏訪市茶臼山鎮座	職員一同司遠藤久芳	志 神 社	M 本市 四 柱 神 社 四 柱 衛 音 廣 市宮 坂 信 廣 市宮 坂 信 廣
佐久市田口鎮座 一	佐 久総 社	破魔射場鎮座 総代会長 土 屋 一 人 を コ 水 澤 光 男	能 野 皇 大 神 社 軽井沢町峠鎮座	宮 司 滝 和 人	御嶽王滝社	海 嶽 神 社

		謹	7	質	剩	ŕ	年		
総宮小	飯山土	総称宮	大真里	総宮代	科総上田本	総称宮代	長軽井	総称宮代	諏 軽井
窓 司 鷲	市小菅の里鎮座	代 長 宜 司 清工関	大星星星星代崇敬社	総代会長 伊宮 司 今	科野大田市常田鎮座	総代会長 土 水	長 倉 神軽井沢鎮座	総代会長 大水	諏 訪 神軽井沢質旧軽井沢鎮座
島尾 神	座	水藤口	神	滕井	宮		神	谷澤澤	神
昭隆		潤康守		一正		斉貴光		次貴光	
一男 社		一高和	社	夫昭	社	司文男	社	司文男	社
海 第 司 射 出唐唐	上伊那郡箕輪	総代会長 権 袮 宜 富		総代会長宜立		確	梅 戸 上伊那郡飯島	司代 務 者	上伊那郡辰野町
出版 山 張沢沢	輪町三日	須岡鳥	食	村澤洋	里 点	土 野 土	町	矢 島	·
光克三	町		俊武神	脩俊尹	們	理	神	正	神
博忠忠 社			明彦 社	司輔江			社		社
宮 大	松本	吳 宮	住あづみ野	総宮	鎮 中国 山選	総宮諏	木国曽選	祢 宮 名	水 木
ョ 宮	松本市梓川梓鎮座	氏子総代会長 司		総代会長司	鎮 座 鎮 神山道奈良井宿	部代会長 宮 司 記	木曽平沢鎮座 国選定重要建造物群:	称 宮 名 営 宮 司	水無神
山 熱	梓鎮庭	丸飯	吉	永巣	鎮 辞建	宮巣	要 座 建 造	宮宮宮	無胃咽
田田	坐	山田	神	井山	神	原山 神	物群	田田田	神鎮座
充 神		富泰		康清		守清	漆職	伊利正	
春社		生之	社	宏人	社	人人 社	街	織彦士	社
宮 武	長野市	祢 宮	湯長野市	祢 宮	八 木曾	´	宇 式七	総称宮	小上水
· 弗	長野市東町鎮座	宜司齋齋	湯福清水鎮座	宜司神神	八 幡	総 計 代 司	日 社座	総代長宜司伊太宮	小川神神山鎮座
藤神		藤藤	神	田田	田高原	島田澤 ネ	p	藤田下	神山
吉		英安		ゆき	西野	和好龍		和陽俊	鎮座
睦 社		之彦	社	き乃肇	宫	彦雄一名	t	幸一樹	社

		謹	1	買	7	利	Í		年			
荒 井 神 社	伊那市荒井区	写 司松 井 秀 吾 日 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田	宝宝	宮 司 伊 原 義 雄	(重要文化財誉田別尊神像)「鳩」ケー嶺、八・幡・宮	田市八幡町一九九九	宮司有賀寛典	小井川賀茂神社	岡谷市小井川鎮座	権 称 宜 瀧 澤 けい子 基	象 山 神 社	長野市松代町鎮座
将 宜 宇治橋 邦 彦 司 宇治橋 邦 彦 司 宇治橋 邦 彦	塩尻市北小野鎮座	宝司字治橋 邦 彦 京司字治橋 牧 子 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	塩尻市中西條鎮座	箕輪木下一:	席 司唐 沢 光 忠	箕輪 南宮神社	宮 司 等々力 満	有明山神社	彫刻で名高き裕明門安曇野市穂高有明字宮城	宮 司 丸 山 肇 本社	えびすの神	長野市岩石町鎮座
長 宮司長 沼 大 宮司長 沼 成 天 石 天 石 天 石 大 の 大 の 大 の 大 の 大 の 、 の 大 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の の の の の の の の の の の の の	長野市大町鎮座	大宮五十鈴神社 大宮五十鈴神社	駒ヶ根市赤穂鎮座	権称宜矢 澤 龍 一宮 司齋 藤 吉 睦	美和神社	長野市三輪鎮座	宮 司伊 藤 光 宣	白山社	伊那市御園区鎮座	権称宜小穴真希称 宜字治橋 邦彦 司永持はな子	神明宮	松本市村井町
海 宣宮 澤 佳 雄 社	安曇野市豊科南穂高	整代会長 青木 三 治等 司大 澤 明 三治 一 社	奥州一之宮鹽竈神社御分社	宮 司山 崎 洋 文	麻績神明宮	重要文化財東筑摩郡麻績村麻鎮座	外職員一同 蘇 美 登	(皆 神 神 社)	予二、東一生中元和代町皆神山	^茶 宝唐 沢 光 忠 宮 司唐 沢 克 忠	殿村八 幡 宮	上伊那郡南箕輪村

		謹	1	E	郭	千 年	
宮	駒 木曽	寓 諏	木曽那	総称宮代	平 佐久市鎮座	佐久東 総代	健 飯山東 窓 御 国山東
司徳	駒	司	木曽郡上松町	総代会長 高 橋 小間澤	賀座	佐久市臼田鎮座 宮 司 伴	(国重文若宮八幡社) (国重文若宮八幡社) 度 司 髙 橋 窓 司 髙 橋
原	神	原神		橋澤澤	神	野神	野橋橋神社
正		正		貴		義健	晴 別神
三	社	三 社		登子肇	社	重一 社	光穣勸 社
権称宜横 澤 敬太郎 宮 司 平 林 秀 文	八王子神社	彩 (会長 神田林 政 穂 宮 司 山 崎 洋 文 理 神 明 宮	無形文化財お田植祭り東筑摩郡筑北村坂北鎮座	章 司 久保田 守 彦 祖 神 社	局井郡小布施町鎮座	生任総代高橋繁 夫宮 司豊 城憲 和宮 司豊 城憲 和 憲 和	神社庁松塩筑支部 東部長 山崎 洋 文 東部長 山崎 洋 文
	10	矢 本 八 幡 宮 川 和 工 忠 平	長野市戸隠鎮座	五宮神社	県文化財花馬祭り県文化財花馬祭り	等司宮下 俊樹宮司宮下俊樹 宝司宮下俊樹 会長野市中条鎮座	宮 司近 藤 政 彰 田市山本鎮座

大好評につき本年度も開催決定!

みの良い思い出作りとしてお気軽にご参加下さい。

平成29年3月23~24日(1泊2日)

25万人下在11100

伊勢の神宮は私たちが生きて行く上で欠かすことのできない、太陽を象 徴する「天照大御神」様をお祀りする内宮と食物を司る「豊受大神」様をお 祀りする外宮、全部で125社で成り立っていて、大昔から日本人がとても 大切にしてきた尊い神社です。ここでお参りをして舞を見学します。

神宮のすぐおとなり、昔からお参りにきた人をもてなしているおはらい町 を散策しよう!

名古屋港水族館では、楽しく学べるイベントがたくさん用意されているよ。

なるよう努めてまいります。ご友人お誘いあわせの上、春休 奉納では古来よりの舞を拝観することはお子さまにとって ない御垣内参拝では正装にて心を引き締めて臨み、 通じ建築物や御神宝などに使われる日本古来の技術や製 歴史と特別な由緒を持つだけでなく、二十年に|度の遷宮を 伊勢の神宮は正式名称は単に「神宮」といい、二千余年の 全行程に教化部の神職が同行し、 この旅行では神宮への参拝を通じて、日本人の培ってきた 「崇敬」の念を体感し、 、未来へと伝える役割を担う世界的にも希有な場 特別な許可を得なければ入ることのでき 、伝承文化に触れる事を目 、楽しく意義ある旅行と

家族の皆様へ

春休みの楽しい思い出をつくろう!

程 参加者には詳細パンフレットをお送りします。

(6:00~8:00) 県内各地を出発

13:00 昼食(車内弁当)

14:00 内宮 御垣内特別参拝·御神楽奉納·写真撮影 238 16:00

おかげ横丁 おはらい町散策 お買い物

17:30 神宮会館

夕食・講話・まとめ・宿泊

神宮会館 朝食 7:00

8:20 神宮会館発

8:30 外宮自由参拝

9:35 夫婦岩(二見ヶ浦)

12:00 名古屋港水族館

15:30 同所発 夕食(車内軽食)

(19:30~21:30)県内各所に帰着

*都合により行程が変更になる場合もございます。

《開催日》平成29年3月23日(木)~24日(金)

象》中学生以下(小学3年生以下は保護者同伴にて参加いただきます) 《対

《募集人員》 120名

248

《旅行代金》子供1名 18,000円 同伴保護者1名 20,000円 往復バス代・1泊5食・参拝玉串料・施設入場料など全て含みます。

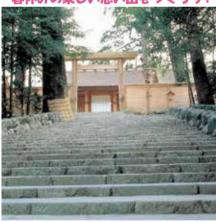
《食 事》朝1回、昼2回、夜2回

《宿 泊》 神宮会館(伊勢神宮崇敬会が運営するホテルです) 伊勢市宇治中之切町152 電話0596(24)7162

《申込期限》平成29年1月31日(第一次締切) 平成29年2月20日(最終締切)

(定員になり次第閉切らせていただきますのでお早めにどうぞ)

《申込先》地元の神職にお申し込み下さい。 尚、集合場所等詳細は平成29年3月10日頃に発送します。







お問い合せ 長野県神社庁教化部

電話 026(232)3355

FAX 026(233)2720